

2008年活動報告

地域に根ざした継続性のある安全運転普及活動の展開

Hondaは、二輪・四輪・汎用製品を製造販売する会社として、お客様に対して単に製品をお渡しするだけでなく、安全もセットでお渡しするという理念のもと、1970年から安全運転普及活動を展開している。

2008年は、以下の4つの側面で活動の充実と進化に取り組んだ。

南から北まで全国展開をめざす新たな始まり

九州地区の活動

Hondaは、これまで鈴鹿製作所のある三重県を中心に、子どもたちを対象とした「あやとりい(3面※4参照)」教育や高齢者の自転車教室、歩行者教育を行ってきた。こうした地域に根ざした定着性、継続性のある活動を全国的に展開するため、今年度は2つの新しい活動に取り組んだ。

1つ目は、この4月から熊本製作所に普及活動の専任部隊である安全運転普及グループを設け、九州地区を対象に始めた活動。九州地域にある関連企業の賛同を得て、各社の従業員の中にホンダパートナーシップ・インストラクターと呼ばれるインストラクター集団を作り、ホンダと関連企業が一緒になって活動を展開している(左コラム参照)。

地域や団体が必要とする指導者育成の支援、またすでに活躍している交通安全指導員など指導者の方々の活動支援のために、Hondaの教育プログラムやノウハウを積極的に提供していく。



九州地区で始まった地域での交通安全イベント

九州地区の活動事例

九州地区では、交通安全教育プログラム「あやとりい」の実践、交通安全イベント「親子交通安全教室」・「親子バイク教室」の開催など地域に根ざした活動が始まっている。



「止まる」実験。人もクルマも急には止まらないことを実験から学ぶ

「見る」実験。見通しの良い箇所を通るボールは、筒の出口でキャッチして人形を守ることができるが、見通しの悪い場合はボールをキャッチできずに人形にあたってしまいます。見通しの悪い場所では、止まって安全確認することを伝えました。

10月7日、熊本県大津町立大津南小学校では、5年生42名を対象に「あやとりい」が行われた。指導を担当したのは、熊本製作所安全運転普及グループのインストラクターと大津地区交通安全教育講習員。授業では、「止まる」実験、「見る」実験を交えながら、クルマは急に止まれないので交差点では自分がちゃんと止まって、よく見ることが事故防止につながることを伝えられた。

10月19日には、熊本県野外劇場アスペクタ(阿蘇郡南阿蘇村)にて「カントリーゴールド2008」が開催され、その会場の一角で「親子バイク教室」が開かれた。Hondaと関連企業のインストラクターがサポートする中、子どもたちはバイクの体験を通して、ルールやマナーの大切さを学んだ。



「カントリーゴールド2008」の会場で行われた「親子バイク教室」

※1「カントリーゴールド2008」=1989年以来毎年開催されている、国内最大級の「カントリーミュージック・フェスティバル」(主催:カントリーゴールド実行委員会)

指定自動車教習所との連携

今年新たに始めた活動の2つ目は、地域の中で交通安全活動を積極的に進めている指定自動車教習所との連携。すでに13の自動車教習所と連携して、Hondaの安全教育ノウハウを使った交通安全教育や啓発活動などが始まっている。



自動車教習所で行われた、Hondaの自転車シミュレーターを使った交通安全教育の様相

Honda販売会社の活動

Hondaの四輪、二輪、汎用販売拠点、安全運転に関するHonda社内資格を取得した販売スタッフやサービススタッフが、お客様の経験や困りごとに応じて、店頭で直接安全の知識や乗り方をお伝えしている。

また、販売店の駐車場や教習所のコース等を使い、車庫入れのよくな苦手克服から、滑りやすい路面でのブレーキ体験など、お客様のニーズに合わせて安全講習会も開催している。今年度は、約3000回(10月現在)行われ、約1万人のお客様が参加した。

今年度は、富山県や熊本県の拠点



Hondaの販売会社では、お客様のニーズに合わせた安全運転講習会を開催するなど、お客様に安全を伝える活動を展開している

のように、積極的に広く地域の方に参加を呼びかけて講習会など安全イベントを開催した販売拠点も出てきている。

全国8カ所にある交通教育センターの取り組み

交通教育センターの活動

全国8カ所にあるHondaの交通教育センター(もてぎ、和光、埼玉、浜松、浜名湖、鈴鹿、福岡、熊本)は、主として企業・団体の運転者、安全管理者など、各種スキルを受講する個人を対象に活動を行っている。年間の利用者は今年度は8万人(10月現在)を超えた。交通状況を映像で見ながら行う「動画KYT(危険予測トレーニング)」は、集合教育の中で実践的に危険予測力を高める教育技法として企業の関心も高い。

また、自治体からの要請で高齢ドライバー向けの研修「Honda健康ドライブスクール」や小学生や中学生対象の



「動画KYT(危険予測トレーニング)」は、実際の運転状況に近いコンピュータグラフィックス映像を使い、危険予測スキルを高めるトレーニングが行える

自転車教室の実施など、地域と一体となった活動も広がっている。

先進性、独自性のある活動の強化

教育プログラムの開発

Hondaは、交通安全の教育効果をより高めるために、教育プログラムや教育機器の開発に取り組んでいる。四輪・二輪運転者のための参加体験型教育プログラムは、今日では広くドライバー教育の中で実施され、特に近年は、気づきを促し、交通行動を変える座学の教育プログラムに力を入れている。

教育機器であるシミュレーターは、運転操作の練習だけでなく危険の疑似体験、自分の運転への振り返りなど、実践的に気づきを促すのに最適なハードウェア。今年度は、ライディングシミュレーターのマイ



自転車シミュレーターは、集合教育ができる教育手法を研究している

交通社会に潜在的に存在する課題の研究

交通社会に影響を及ぼす社会的諸因子、各種交通手段の変化、交通事故の未来予測の研究を進めるなど、次の課題を明らかにするための調査研究にも着手している。

幼児や児童を対象にした「あやとりい」は、地域の交通安全教育の現場で活用されている

